2026 年 6 月　ver.1

研究課題名	上部消化管術後再建腸管を有する患者に対する超音波内視鏡下組織採取
研究の意義・目的	超音波内視鏡下組織採取（endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition：EUS-TA）は、超音波内視鏡（超音波の装置が搭載された胃カメラ）を用いて膵臓やその周囲の病変を観察し、細い針で組織を採取して診断する検査です。 胃切除、食道切除、膵頭十二指腸切除などの手術を受けた患者さんでは、手術後の再建方法（胃や腸などを新しくつなぎ合わせる方法）により胃や腸の形が通常と異なるため、超音波内視鏡で病変を観察したり、組織を採取したりすることが難しい場合があります。 本研究では、上部消化管の手術後に消化管の形が変わっている患者さんに対する EUS-TA について、病変を確認できたか、組織を採取できたか、正しい診断が得られたか、偶発症（検査による不具合）が起こったかを診療録から調査します。 この研究により、手術後の再建方法や病変の場所によって、EUS-TA がどの程度実施可能であるかを明らかにし、今後同じような患者さんに対して、より安全で適切な検査方法を検討するための資料とすることを目的としています。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～　2028 年 3 月 31 日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2015 年 1 月から 2025 年 6 月までに大阪公立大学医学部附属病院において、上部消化管の手術後に消化管の形が変わっている状態で、膵臓または膵臓周囲の病変に対して、EUS-TA が試みられた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記の診療情報を本研究に使用させてください。本研究のために新たな検査、処置、採血、画像検査、組織採取などを行うことはありません。対象となる検査は 2015 年 1 月～2025 年 6 月に実施されたものですが、その後の診療経過については 2026 年 7 月までの情報を利用します。 診療情報：年齢、性別、既往歴、上部消化管手術歴、手術術式、再建方法、病変の部位、病変の大きさ、画像検査所見、超音波内視鏡検査所見、病変描出の可否、使用した超音波内視鏡、穿刺経路、使用した穿刺針の種類、針の太さ、穿刺回数、手技時間、病理検査結果、最終診断、偶発症の有無および内容、診療経過

試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学のみで行います。 【研究責任者】 大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学　丸山 紘嗣
個人情報の取り扱い	この研究では診療情報を研究用の番号に置き換えて管理します。氏名、カルテ番号など、個人を直接特定できる情報は解析に用いるデータには含めません。 研究で得られた結果は学会や医学雑誌などで発表されることがありますが、その場合でも氏名など個人を特定できる情報が公表されることはありません。 研究に関するデータは大阪公立大学の規程に従って適切に保管・管理します。
本研究の利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院　消化器内科 担当者氏名：丸山 紘嗣 電話番号：06-6645-3811